

2026 年度
建国高等学校 入学試験問題

日本語

(100 点 50 分)

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れなどに気付いた場合は、手を上げて監督者に知らせること。
3. 問題冊子の表紙(このページの下部)及び解答用紙には、以下の項目があるので記入漏れのないようにすること。
 - ・ 受験番号
 - ・ 名前
4. 解答用紙は両面印刷です。記入漏れのないようにすること。
5. 試験終了後、この問題冊子は回収します。

受験番号	名前
番	

Ⅰ つぎの文章を読み、あとの問いに答えなさい。(字数制限がある場合は、文章記号なども一字とする)

新しいことを知る。気安くそう言うけど、これがなかなか大変である。本当に未知のことはまずできないと覚悟した方がよい。手がかりになるものがないのである。手がかりとは何か。⑦ 既知の事柄である。ことばの理解は、それまで持っている知識や経験によって成立する、というのはいつも頭に入れておくべきだろう。① それがはっきりとあらわれるのは、やはり、外国語である。母国語では知らないようでも、いくらかは耳にし、目に入っていないとも限らず、既知と未知の④ キョウカイは定かでないことがすくなくない。

外国語では、既知の部分がごく少なく、未知との間に明確な一線が画されているのが普通である。ことばの問題を考えるには、極限状況の外国語の理解はしばしば面白い手がかりを与えてくれる。日本でアメリカの関係者向けに放送しているFENがニュースを流す。かなり早口にまくし立てるような調子で読まれるこの英語が何とか聴きとれたら、日本人の英語としてりっぱなものだとヒアリング(聴取力)は折り紙がつけられる。はじめのうちはなかなか聴きとれない。すこしずつ慣れるとだんだんわかってくる。ことばは慣れであることがよくわかる。② はじめはひどく早口に思えた英語が、聴きつけていると、それほどでもないように感じられてくる。一般に、話される外国語は実際以上に速いようにきこえるのは、母国語にくらべて未知の部分が多いからであろう。新しいことばの理解にはそれだけ時間を要する。ゆっくりと話してもらわないといけないのに、普通のスピードで先へ進まれると、追いつかない。実際以上に速いように思われる。慣れてくると、同じ速さのものが、ゆっくりしているように感じられだす。米つぶに字を書く芸をする人がある。はじめから字など書けるものではない。毎日、毎日、米つぶを見つめる訓練をする。はじめはごく小さく思われた米つぶが、だんだん大きく見えてくるようになる、という。そうして、すこしずつ字を書く練習

習が始まる。慣れには、^③ そういう心理的变化があるらしい。

ことばは理解する側があらかじめもっているものに合わせたわかり方をする。「カニは^① 甲羅に似せて穴を掘る」。ことばは自分の既知に合わせたわかり方をする。既知がすくなくればわからない。わかっていることはわかり、わからないことはわからない。^⑦ タンジュンメイカイ。知識が多くなればなるほど、ひとのことばがよくわかるようになる。知識がすくなくればすくなくほど、読んだり聴いたりすることは難しい。

よく、文章やことばを、あるがままに読んだり解したりする、というけれども、客観的な理解ということは、頭では考えられても、実際には存在しない。頭に入ってきたものは、かならず、受け手の先行経験や知識によって「加工」される。この「加工」が[※] 誤解になることもあるけれど、同時にまた、これがわかったという実感を支えていることも忘れてはなるまい。まったく「加工」なしで、おもしろいと思うことは困難である。^④ 感動と誤解はしばしば紙一重である。

ふたたび、外国語を例にとる。その方が問題がはつきりするように思われる。

(中略)

イギリスのことわざにア・ローリング・ストーン・ギャザーズ・ノー・モス(a Rolling stone gathers no moss.)というのがある。^⑤ 「ころがる

石にはコケはつかない」。つまり、たえず商売変えをしたり、引越しばかりしているような人間にはコケはたまらない、じっくり腰を落着けよ、という教訓である。

ところが、同じく英語を使っているアメリカ人の間で、このことわざに变化がおこった。「ころがる石には妙なコケなどつかない」というように^⑥ 解され出したのである。優秀な人は絶えず活動している。スカウトされて^⑧ ツトめも次々と変わる。サビたり、カビたりするひまもない、というのだ。イギリスでは良い意味だった「コケ」がアメリカではよくないものになった。したがって、イギリスでは感心しない「ころがる石」がアメリカでは立派な人間のことになる。

⑥ 甲羅が違えば穴も違う。われわれは知らず知らずのうちに、ことばを自分に引き寄せて読み、聞いている。もし、あらかじめ知識がないと、わかることもわからなくなる。よく知っていることなら、一を聞いて十を知ることができる。本なら斜めに読んでも結構わかるのである。

外山滋比古「読みの整理学」より

(1) 二重傍線部㊦㊧の漢字をひらがなに、カタカナを漢字で書きなさい。

(2) 二重傍線部※「誤解」のように「誤」が語頭に来る二字の熟語を三つ書きなさい。

(3) 傍線部①「それ」が指す内容を「こと」に続くように文中から抜き出し、最初と最後の三字を答えなさい。

(4) 傍線部②「はじめはひどく早口に思えた英語が、聴きつけていると、それほどでもないように感じられてくる」について、問いに答えなさい。

Ⅰ この文の主語を答えなさい。

Ⅱ この文から名詞をすべて抜き出しなさい。

Ⅲ この文から動詞をすべて抜き出し、基本形で答えなさい。

Ⅳ 次の傍線部の助動詞の意味をそれぞれ選び、記号で答えなさい。

A「思えた」	「ア 過去	イ 完了	ウ 存続	エ 想起	オ 伝聞
B「感じられて」	「ア 自発	イ 可能	ウ 受身	エ 尊敬	オ 推量

(5) 傍線部③「**そういう心理的变化**」についてまとめた。(ア) (ウ)にあてはまる言葉を本文中から抜き出して書きなさい。

(ア)によって、速すぎるように聞こえていた英語が(イ)感じられるようになり、(ウ)思われた米つぶが大きく見えるようになること。

(6) 傍線部④「**感動と誤解**はしばしば紙一重である」について、本文の内容と合うものを選び、記号で答えなさい。

ア 文章やことは、話し手の経験や知識によって解釈の幅が変わるから。

イ 文章やことは、受け手の経験や知識によって解釈の幅が変わるから。

ウ 文章やことは、書き手の経験や知識によって解釈の幅が変わるから。

エ 文章やことは、受け手の経験や知識に頼らない解釈の幅があるから。

(7) 傍線部⑤「**ころがる石にはコケはつかない**」と、同じ意味を持つ慣用句を選び、記号で答えなさい

ア 三つ子の魂百まで イ 百聞は一見に如かず

ウ 仏の顔も三度まで エ 石の上にも三年

(8) 傍線部⑥「**甲羅が違えば穴も違う**」について説明した一文を本文中から二十二字で抜き出しなさい。

(9) 本文の内容に合うものには○、合わないものには×をそれぞれ書きなさい

ア ことは、未知のものだけでも理解することができる。

イ 外国語は、既知と未知のキョウカイが母国語よりも明確である。

ウ ことばの理解において、「加工」は誤解を生むだけの要因である。

エ 知識や経験が増えるほど、ことばの理解は容易になる。

2 つぎの古文を読み、あとの問いに答えなさい。

これも今は昔、丹波国篠村といふ所に、年ごろ、※1 ひらたけ どうしようもなく平茸やる方もなく多かりけり。里村の者これを取りて、人にもこころざし、渡 し

また我も ①食ひイなどして a年ごろ過ぐるほどに、その里にとりて宗とある者の夢に、頭をつかみたる法師どもの二、三十人ばかり

り出で来て、「㊦まうすべき事」と Aいひければ、「いかなる人ぞ」と B問ふに、 ①この法師ばらは、この年ごろ

よく仕えてまいりました

宮仕ひよくしてさぶらひつるが、この里の縁尽きて今はよそへまかりさぶらひなんずる事の、かつはあはれにも ハさうらふ。

また、このことを申さなければと思って

また事のよしをまうさではと思ひて、このよしをまうすなりといふを見て、 ㊦うち驚きて、「こは何事ぞ」と妻や子やなどに語る

同じように見た

ほどに、またその里の人の夢にもこの定に見えたりとて、 Cあまた同様に語れば、 ②心も得で年も暮れぬ。

さて、次の年の ③九、十月ニにもなりぬるに、さきざき 二出で来るほどなれば、山に入りてきのこを求むるに、すべて ※2くさび

ほとんど

どうしてだろうか

すごす

ちゆういんそうず

いらっしゃった

らおほかた見えず。いかなることにかと、里国の者思ひて過ぐるほどに、仲胤僧都とて説法ならびなき人いましけり。この事を

どうしたことか

聞きて、「こはいかに、 ④不浄説法する法師、平茸にうまるといふ事のあるものを」とのたまひてけり。

※3

平茸に生まれ変わる

されば、 ⑤いかにもいかにも平茸は食わざらんニに事欠くまじきものとぞ。

- ※1 平茸 … ひらたけ。キノコ。肉厚でおいしい。
- ※2 くさびら … キノコ
- ※3 不浄説法 … 仏の教えを自分勝手な解釈で広めること

宇治拾遺物語「丹波国篠村、平茸のこと」より

(1) 傍線部①②の読み方を現代仮名づかいのひらがなで書きなさい。

(2) 「丹波国」の現在の都道府県名として最適なものを次から選びなさい。

ア 埼玉県 イ 京都府 ウ 愛媛県 エ 沖縄県

(3) 傍線部①②③の意味を選んで書きなさい。

① 長年 近年 今年 ② うろたえて 起きて 笑って ③ 少し たくさん 際限なく

(4) 傍線部①「いひければ」、②「問ふに」の主語を本文中から抜き出して答えなさい。

(5) 二重傍線部①「この法師ばらは」とあるが、この法師ばらのセリフを最初と最後の三字を本文中から抜き出して答えなさい。

(6) 二重傍線部②「心も得で」の意味として適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 準備できないまま イ 何もできないまま ウ 理解できないまま エ 信じられないまま

(7) 二重傍線部③「九、十月」とあるが、古文における「九月」「十月」の読みがなをひらがなで書きなさい。

(8) 二重傍線部④「不浄説法する法師」と対比された言葉を本文中から八字で抜き出しなさい。

(9) 二重傍線部⑤「いかにもいかにも平茸は食わざらん」に事欠くまじきものとぞからわかる村人の心情として最も適当なものを選びなさい。

ア 僧都の言葉を恐れて、平茸を食べられなくなって悲しんでいる。

イ 僧都の言葉を恐れて、平茸を食べるのをためらっている。

ウ 僧都の言葉を恐れて、いま一度平茸を復活させたいと思っている。

エ 僧都の言葉を恐れて、平茸の味を忘れたくないと思っている。

(10) 本文における「平茸」の正体を本文中から十一字で抜き出さない。

(11) 本文の内容として適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 丹波国で平茸がたくさん生えるのは僧都の説法によって村民がその罪を清めたためである。
イ 丹波国で平茸が生えなくなったのは僧都の説法によって平茸の栽培が禁止されたためである。
ウ 丹波国で平茸がたくさん生えたのは僧都の説法によって平茸の栽培が再開されたためである。
エ 丹波国で平茸が生えなくなったのは前年の村民の夢に現れた法師との縁が切れたためである。

3

中学最後の夏休みを終えた、三人の人物がそれぞれの感想を話し合っています。

次の会話をもとに、一志くんの立場で学校に提出する旅行の感想文を書きなさい。

- 名前、題名は書かずに、本文から書き始めること。
- 原稿用紙の正しい書き方にしたがって、書くこと。
- 二百四十字以上、三百字以内で書くこと。
- 箇条書きではなく、文章で書くこと。

一志.. いやー、疲れたけど、屋久島の旅は本当にすごかった。縄文杉を目指して歩く山道は雨でドロドロになったけど、あの苔むした森の神聖な雰囲気は、たいへんな思いをしても行く価値があったよ。

英子.. えー。ずるうい。わたしもそんなすごい見たかったあ！

千陽.. 泥だらけになるのも旅の思い出だね。私のベトナムでのホームステイもそうだった。スマホも通じない山奥の村で、家族と一緒に畑仕事をしたり、民族衣装を着せてもらったり。不便だからこそ、人の温かさが心に染みたま。

英子.. 私もアオザイ着てみたかったなあ……。

一志.. ぜいたくな時間の使い方だね。僕は歴史好きだから、今回の旅は、杉の伐採の歴史にも触れられて奥深かった。夜、波の音を聞きながらお父さんがいれてくれたコーヒーを飲むのが最高だった。次は知床しれとこでキャンプしながらアイヌの歴史に触れたいんだ。

英子.. いいなあ、わたしも北海道で流氷とか見ながら海鮮丼とか食べてみたい！

千陽.. 素敵。私は言葉が通じないなか、折り紙や指差し会話帳で子供たちと仲良くなったのが宝物。ノートが思い出で一冊埋まっちゃった。次はモロッコのサハラ砂漠で、ラクダに乗ってベルベル人の音楽に触れる旅を計画してるの。

英子.. ふたりともいいなあ、わたしの夏休み、部活だけで終わっちゃったよ…。

一志.. ぼくたちは「自分なりのぜいたく」を見つけられた旅だったよ。お土産もあるから、もっといっぱい話そうよ。

受験番号		名前	
------	--	----	--

	一
(1)	
かい	きち
勤	境界
なな	単純明快
	こうら

(2)	誤
	字

誤	審
---	---

誤	報
---	---

(3)
こ
と
ば
ゝ
立
す
る

こと

(4)	
Ⅲ	Ⅰ
思う・聴きつける・感じる・くる	英語が
	Ⅱ
	はじめ・早口・英語・
Ⅳ	
A	
ア	
B	
ア	

(5)	
ウ	ア
(ごく) 小さく	慣れ
	イ
	ゆっくりしているように

(6)	イ
(7)	工

(8)	
わ	こ
せ	と
た	ば
わ	は
か	自
り	分
方	の
を	既
す	知
る	に
。	合

(9)
ア
×
イ
○
ウ
×
エ
○

2
(I)
くい
もうす
そうろう
いでくる

(2)
1

(3)			
	長年		
		起きる	
			際限なく

(4)	
(頭をつかみたる)	法師ども
	宗とある者

(5)
こ
の
年
ゝ
す
な
り

(6)
ウ

(7)	九月	ながつき	十月	かなづき
-----	----	------	----	------

(8)
説
法
な
ら
び
な
き
人

(9)
1

(10)
頭
を
つ
か
み
た
る
法
師
ど
も

(II)
I

解答用紙は裏に続く